

令和5年度小松市立芦城中学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>生徒が主体となり、学校をよりよくするための活動を見つけ出す力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どんな学校にしていきたいか」生徒が主体となり企画・実施できる場を設定できるように、支援する。その方策として、「毎月1回の生徒集会を開催する」「自校の問題を考える集会を企画する」「校則についての見直しを行う」「終礼時に帯タイムを実施し、生徒同士の繋がりを深める活動を行う場面を設定する」「学級活動の充実を図り、教室内での居場所づくりエンカウンターを取り入れる」といった実践に取り組んでいく。 		
特別支援教育	<p>特別な支援を必要とする生徒に適切な支援を行うことができる体制を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育校内委員会を計画的に開催し、支援体制の検討とその情報の共有を図る。 ・学年会の場を活用して支援を必要とする生徒の状況把握に努めるとともに、具体的な支援策を検討・実践し、職員会議の場で共通理解を図る。 ・必要に応じて、専門機関や専門家につないで、支援の方法を検討する。 		
道徳教育	<p>「考え議論する道徳」の教育実践の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション道徳を実施し、教材への指導力を高める。 ・学級や学年の枠を超えた、縦割り道徳をおこなうことで、縦のつながりを深める。 ・家族道徳によって、保護者の考えを聴き、多面的・多角的に思考を深める。 ・「心のテーマ」を活用し、豊かな道徳性をはぐくむ。 		
キャリア教育	<p>働くことの意義を理解し、将来を見通して進路を選択する力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や総合的な学習の時間を中核として、年間計画に基づいた指導を行う。 ・玉成会と連携し、地域や卒業生などの人材を招聘し、体験的活動や啓発的活動を効果的に行う。 ・生徒と保護者の意思統一のもと、適切な進路選択の助言に務める。 		
保健健康教育	<p>身体や健康に対する意識を高め、的確に判断し主体的に行動する力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナに向けて、状況に応じた指導を実施する。 ・ミニ健康指導を年間3回実施する。 ・生徒保健委員会による保健検定を実施する。 ・学校保健委員会を、生徒や保護者を交えて開催する。 ・地場産物や旬の食材を紹介することで興味を引き出し、食に関する指導の充実を図る。 		
生徒会活動	<p>生徒主体の活動を通して、生徒の自治能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部や各委員会同士の関わりを増やし、生徒会活動をより活性化する。また、その活動の様子を掲示等で全校生徒と共有できるようにする。 ・目頃から学年を越えた縦割りの活動を設ける。 ・生徒集会では、前年度以上に生徒が活躍できる場を設け、生徒が達成感を感じることができるようにする。 ・目安箱や生徒アンケート、小中学生サミットなどを通して、全校生徒の意見を取り入れた主体的な活動を積極的に行う。 		

学校関係者評価	
---------	--